

令和5年度 宮崎県立小林こすもす支援学校自己評価

4段階評価

A 十分満足できる B ほぼ満足できる C やや物足りない D 改善を要する

【総評】

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント
1 教育活動	①児童生徒の実態に応じた教育計画の作成と評価 ②学部間、校務分掌間が連携した円滑な校務運営 ③生きる力を育むための教材の開発、学習環境の整備 ④集団参加と対人関係能力の育成 ⑤教育方針や教育活動についての保護者への説明 ⑥児童生徒への適切な指導と必要な支援 ⑦児童生徒や保護者のニーズに応じた教育の展開 ⑧児童生徒の障がいの状態や発達段階等に応じた教育の実践	<p>児童生徒への指導計画の作成や個に応じた指導の実践については、A,Bと評価した割合が8割を超えており、しかし、より充実した教育を展開する為の自己研鑽は必要であると考えている(③)。</p> <p>また、学部や校務については、約3割が課題意識を持っている(②)。学部別に設置されていることに起因することもあると考えられることから、計画性と情報共有の迅速性について改善策を協議していく必要性があると考えている。</p>	C	B	<ul style="list-style-type: none"> 先生方は熱心に、状況に応じて柔軟に対応していると思う。 学部別設置という不利な環境に対してより一層の工夫を求める。 児童生徒へ向き合う時間確保のために、事務業務の削減、効率化等の働き方改革の推進に期待する。
2 連携・支援	⑨個別の指導計画等を作成し、長期目標を意識した実践 ⑩保護者へのきめ細かな連絡 ⑪交流活動等を通して、共生社会を目指す学校づくりの推進 ⑫学級の児童生徒の実態に応じた計画的できめ細かい学習指導 ⑬保護者と情報交換や共通理解を図った連携・協力	<p>全5項目についてA,Bと評価した割合の平均が約9割となっている。保護者との連携に関する職員の意識は高いといえる。</p> <p>また、施設が一体化している特徴により、共生社会に向けた学校づくりへの取組が推進できていると考えている。</p>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者へのきめ細かな連絡等については、意識が高いと思われる。引き続き、個別の要望に応えることに期待する。 併設校との交流については、今後も継続することが大切であると思われる。

3 研修	⑭ 研究、研修を通した特別支援の専門性の向上	研修等による専門性の向上については、一定の成果が見られるが、職員相互の支援については、改善が必要である。協力体制についての意識を醸成する取組について検討していく。	B	B	・地域支援として、特別支援学級のニーズに応えられるように、より一層の連携を望む。
	⑮ 職員個のニーズ対応と教員間の相互支援				
4 生活・安全	⑯ 児童生徒の健康な心身の育成と基本的生活習慣の確立	全4項目についてA、Bと評価した割合の平均が9割を超えており、自転車利用時のヘルメット着用も実施できている。自然災害や防犯体制についての協議を引き続き行なっていきたい。	A	B	・ヘルメット着用については評価できる。 ・地域で自立的に生活するために、登下校を含む移動手段について、より一層の指導と啓発が必要である。
	⑰ 交通マナーの徹底と社会規範意識の向上 ⑱ 高い危機意識と防止対策 ⑲ 自然災害等に対する緊急時対応の整備と対応の充実				
その他	⑳ 職員の各種委員会や課題研究の効果的な実施 ㉑ 児童生徒や職員の人権擁護 ㉒ 会議の精選と時間短縮、事務の効率化 ㉓ 児童生徒の登校意欲 ㉔ 保護者のPTA活動に対する意識 ㉕ 快適で安全な教育環境 ㉖ 個人情報の保護と地域への情報発信	会議の効率化や個人情報の保護についての意識は高くなっている。 一方で、学校生活への楽しみ(㉗)が少ない児童生徒が数名いることから、対応が必要である。 また、施設の老朽化、狭隘化に加えて、小学校部の分散配置についての対応は急務であると認識している。	D	C	・先生方の業務への姿勢は素晴らしい。 ・施設面の課題(狭隘)は大きく、特に学部部分散についての対策は、強く求められる。

その他の意見

- ・児童生徒、保護者理解を深めると共に、地域の特別支援教育への啓発に期待する。
- ・家庭環境へのサポート等については、関係機関との連携をより実践的に推進する必要がある。